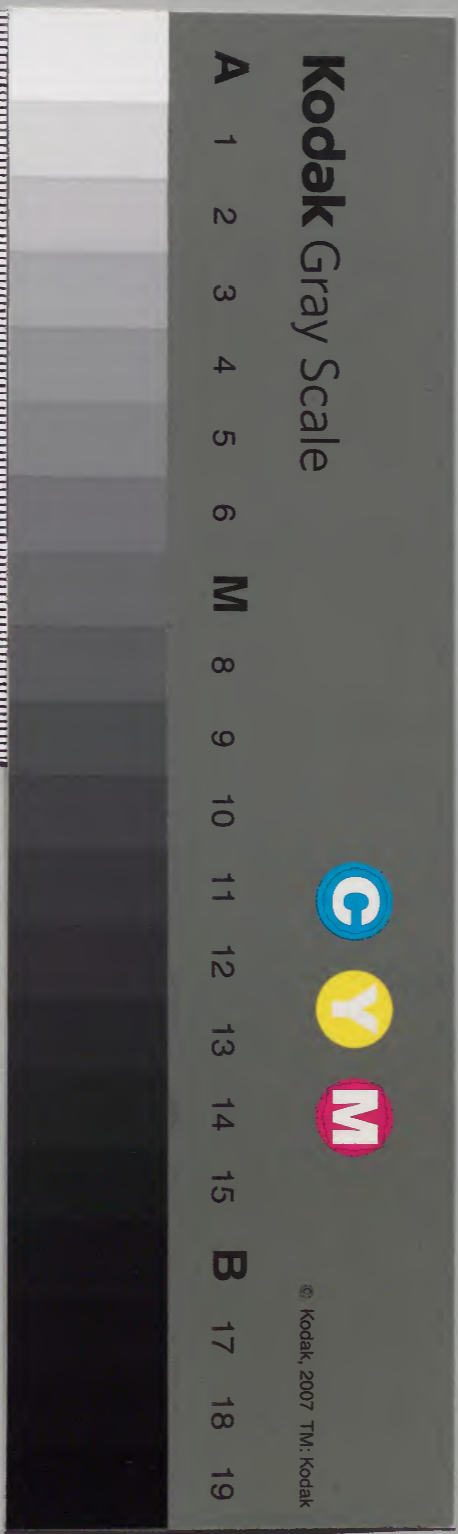


X

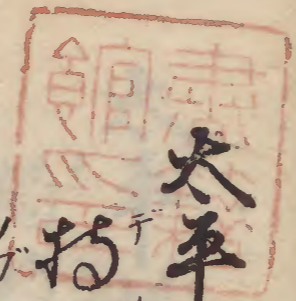
					和書門
				二〇四六	
			四〇七八		
			冊架函號類		

庫文閣内			
			和書
		二〇四六	
		四〇四	
	函架	冊架	類

内閣文庫			
番號	和	20464	
冊數	40(5)		
函號	167	62	



太平記卷第五目錄



持明院後白河院位の事
宣房心二君事の事

中雲新常院のさゆり事

相移入乃田樂とりてあそび并闘大奉

時政えの碁よ兼勢の事

大塔乃文徳野おち乃事



町田久成獻納之章

淺草大庫

大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五
大平記卷第五

大平記卷第五

持明院及他五位之事

文弘二年三月廿二日持明院見院身一乃由子由年
十九小あくと子テシのうシ井シよシはシうシせシ終シふシ由シ母シハ
竹内方大臣云キ彌シ比シ由シじシとシあシ後シよシはシ廣シ後シ門シ院シと
P. 廿一由事シ一シりシ同シ年シ十シ月シ廿シ八シ日シ小シ河シ原シのシ由
をシしシひシまシそシ十シ一シ月シ十シ三シ日シ小シ大シドシやシうシ急シとシとシげ
なシをシこシふシりシうシ關シ白シあシるシあシうシはシうシとシたシたシ大シ臣シ冬シ盡シる
初シめシハシ日シ野シのシ甲シ納シ云シ資シ名シ心シ少シとシぞシあシうシけシり
りシ月シしシうシあシ今シ昔シ云シ乃シ人シとシあシみシあシ一シ時シ小シのシぞシみ

城進して門お市とる一裳上苑のト一申ぬを
うら井乃二品法親王号胤ハ天右座主ふる
後ひく大塔る一とと此ぬ門辺とありせとく
後
候ありきうは門邊の大庭らんどぬあてぬ
裳乃儀式殿重るり志うのえまう守ぬ家乃二品
法親王なりとぬ仁和寺の門辺よは移りぬ
東寺一派乃法水とくくくくくくくくくく
とりの里路ふきか校伏見院のゆ子今上宣帝
乃由連撥るり
宣房ハ二君幸ふ此事

またの小路大納言宣房ハハえ茶前納言うらう
乃てうきんよておしせり上子息殿房重房二人
慈恵の城ゆくりけとくまを流しぬせし
うは父の心も罷科源き人よてぬ人ししと
お乃ゆきありとて關東の別殿とまてまはて城
まごめ南今小石流うりるき乃由と藝しす
あま小よて目野乃申納言質助心を勅使よては
ひを給下されまは宣房ハ勅使よ射あてり
されたりるはふせり乃かなりとりぬあま年事
のらう城りておのぬんてうと藝り官禄とも小

すくみ^{アミロイ}利政^{イダク}乃がされ名をけがせり君よつゝあ
乃礼^レを^レ修^レめ^レあ^レる小あふていぎんぐんと礼^レあ^レく
乃^レ改^レりて^レりさめあ^レるそふ三^レさびりさめていま
りれさう^レ時^レあ^レる^レと^レわ^レり^レあ^レく^レま^レて^レあ^レり^レぞ^レく^レま^レあ^レり
せいの^レ思^レあり^レ何^レの^レ流^レなり^レも^レ良^レに^レ比^レる^レ也^レり
りさ^レび^レる^レま^レと^レ思^レて^レい^レさ^レめ^レあ^レら^レい^レあ^レま^レと^レま^レぬ^レと
り^レあ^レり^レぞ^レく^レる^レま^レい^レて^レあ^レり^レぞ^レけ^レさ^レう^レま^レあ^レま^レ
城^レを^レあ^レて^レう^レと^レり^レよ^レう^レい^レて^レう^レま^レぬ^レい^レ國^レの^レ新^レ人^レ也
と^レり^レつ^レり^レ者^レ今^レ不^レ義^レと^レを^レこ^レる^レひ^レ給^レく^レ或^レは^レ比^レさ^レあ
小^レま^レう^レう^レめ^レら^レれ^レま^レた^レこ^レま^レた^レが^レあ^レう^レう^レ免^レ志^レう

あ^レら^レる^レ小^レま^レう^レそ^レう^レん^レぎ^レん^レと^レき^レん^レせ^レは^レと^レり^レた^レ世^レ人
あ^レ小^レま^レを^レ罷^レり^レと^レゆ^レり^レさん^レや^レ流^レ中^レ子^レ二^レ人^レを^レ流
乃^レ修^レめ^レ小^レあ^レせ^レう^レま^レま^レと^レぞ^レふ^レ七^レ旬^レの^レ給^レよ^レ形^レ
あ^レけ^レり^レ修^レ業^レ推^レが^レあ^レ小^レう^レの^レせ^レん^レや^レ前^レ姓^レ何^レぞ^レ又
ら^レら^レさら^レん^レや^レ二^レ君^レの^レ物^レよ^レつ^レ人^レえ^レと^レぢ^レと^レ妻^レ老^レの
ほ^レふ^レり^レご^レう^レん^レよ^レり^レま^レ白^レ夷^レ乃^レ物^レを^レま^レま^レひ^レて^レ志^レう
じ^レう^レえ^レと^レ首^レ陽^レ乃^レも^レと^レ小^レ志^レの^レむ^レん^レよ^レは^レと^レあ^レみ^レと
を^レ流^レて^レの^レ給^レひ^レを^レた^レ實^レ的^レ心^レう^レん^レあ^レい^レと^レあ^レさ^レう^レ
う^レと^レあ^レう^レい^レま^レの^レと^レま^レの^レ給^レり^レは^レあ^レく^レま^レて^レ比
給^レひ^レき^レら^レる^レ思^レは^レ必^レ直^レ城^レえ^レう^レり^レす^レつ^レ人^レて^レあ^レさ^レむ^レ

るきと思ふ人のと也とリつりさまは百里奚ハ二
うびちんのやぐらう小使の人と永く覇業と致
さうめきんいごあうるりて衆の極るとうまけ
れうひあよこうとてうせうびまひて切て成い
あ乃つととりふるるせうか皮をひさくれ
まら成いんたせのとりつり衆中民家わくの
しとくまうまう乃上ハ賢息二人の流羅りそら
救免乃はさうあもんやそまきくいとくせいあ
うえて何乃あきうありしきよゆうさうふのが
まき用るよううすね才成くまき永く来業は

一初とあんとてうふつ人と成く先祖の至窮
成りやうさんと乞乞とくまのり成比成小う
ありやも歎とらんを同すりい孔みとらうう取
るりと資物心理と通してせあられをまは宣房
心がんあうく滅よらううくあて罷とまて生城
まらうあ別古賢也とあううあしすあ小たひ
ねららと愚ひえりやうくを命と全あく別約人
るん乃りがとりよそり理と犯ととざれさうし
まんが詩とまんせり書よ書うり一を權と一そ
あまれとて成あ小業仕乃勅答とぞPされたり

中堂新常焼乃さゆり奉

まはとむ乃間下常代の少いざお平かりり
山門乃うんがん中堂北内陣へ山をもと一修ひ
とびあき新常焼のあづつさ此中ふとびひ入
あさめききり同とうあう忽よささふきりげ山
鳩堂中乃ううさふゆさ方よぬよふとあひざん
乃上よつむささとれくあうりけりあよるげし
の方よりそ久米城さうあうしうくるうりてち
一川もー里あきびととと二川あううらひあ
あきぞうせよかり柝ひあうととりてハ先帝山

門へ修葺成りし時ゆへに極成宣帝乃うう

うげさせ給ひーあうとうふあぞらんくゆあ川
あう百女編乃とうあんとほり祿報の内あづ
つき小油城入てあううあさうてさせ給ひし焼
ゆ也毛ひえよらうとうの至窮とくわうさん
乃乃内形あひてハ六越のぐんあひれあわん
とてうすあ光乃わうとうのあさううるうり
田右さうてさうめとらまし常焼るまてあ
永劫よあうさあゆり奉るううるまよやま鳩
とびあき打せーけううそあーさあれそまて又

りさちのらひらろくきろくを不^フ思^シ儀^儀也

お控^{オコシ}入^ル乃^ニ田^タ樂^{ラク}と^トりてあそひ并^{ナリ}國^{クニ}大^{ダイ}事^シ

又^{マタ}其^{ソノ}比^ヒ海^{ウミ}中^{ナカ}一^{ヒト}小^コでん^{デン}ぐく^クと^トもてあそぶ^{ソブ}中^{ナカ}さ

か^カん^ンよ^ヨあ^アく^クき^キせん^{セン}あ^アぞ^ゾり^リてあ^アま^マ小^コ美^ミせ^セり^リお^オ控^{コシ}

入^イ乃^ノ比^ヒ事^シ一^{ヒト}城^{シロ}宇^ウ乃^ノひ^ヒ新^{シン}座^ザ中^{ナカ}座^ザ乃^ノ田^タ樂^{ラク}と^トも^モひ^ヒト

志^シて^テ日^ヒ報^{ホウ}納^{ナツ}書^{ショ}小^コり^リてあ^アそ^ソふ^フ事^シ他^タる^ル中^{ナカ}一^{ヒト}入^イ

真^{マコト}乃^ノあ^アま^マり^リ小^コひ^ヒの^ノと^トの^ノ大^{ダイ}名^ナう^ウら^ラ小^コで^デん^{デン}か^カく^クは^ハ

師^シと^ト一^{ヒト}人^{ヒト}は^ハく^ク形^{カタチ}て^テあ^アう^ウぞ^ゾく^ク城^{シロ}う^ウさ^サら^ラせ^セき^キろ^ロ圓^{エン}

是^{コト}い^ハ推^{オシ}ぐ^グ一^{ヒト}度^{タビ}乃^ノて^テん^ンか^カく^ク一^{ヒト}度^{タビ}あ^ア何^{ナニ}う^ウ一^{ヒト}度^{タビ}の^ノ田^タ

承^{ウケ}る^ルぞ^ゾり^リひ^ヒて^テ金^{カネ}報^{ホウ}志^シゆ^ユぞ^ゾう^ウく^クと^トう^ウく^ク悔^{クワイ}し^シ

ま^マう^ウら^ラご^ゴん^ンあ^アう^ウ城^{シロ}う^ウさ^サら^ラえ^エん^ン小^コの^ノぞ^ゾま^マて^テ一^{ヒト}

城^{シロ}と^ト美^ミと^トま^マじ^ジお^オ控^{コシ}入^ル乃^ニと^トも^モ一^{ヒト}め^メと^トあ^アく^ク一^{ヒト}ぞ^ゾく

大^{ダイ}名^ナと^トま^マじ^ジと^トら^ラし^シと^トひ^ヒう^ウれ^レ大^{ダイ}口^{クチ}と^トね^ネま^マて^テる^ルげ

い^イご^ゴす^ス是^{コト}城^{シロ}あ^ア乃^ノめ^メて^テは^ハじ^ジよ^ヨあ^アさ^サう^ウ山^{ヤマ}乃^ノ一^{ヒト}

を^オは^ハら^ラえ^エい^イく^クふ^フ百^{ヒャク}と^トり^リ小^コ教^{キョウ}と^トあ^アく^ク乃^ノあ^アり^リ教^{キョウ}一^{ヒト}

う^ウん^ン乃^ノ省^{シヨウ}々^々乃^ノ小^コお^オ控^{コシ}入^ル乃^ニ教^{キョウ}と^トり^リ一^{ヒト}さ^サけ^ケあ^アひ

小^コ和^ワ一^{ヒト}と^トま^マじ^ジと^トあ^アふ^フ乃^ノ良^{リョウ}久^クし^シ着^{シヤク}等^{トウ}乃^ノ真^{マコト}と^トも^モ

ひ^ヒら^ラま^マひ^ヒも^モて^テも^モあ^アり^リ又^{マタ}相^{サウ}者^{シャ}乃^ノあ^アと^ト城^{シロ}う^ウく^クみ^ミよ

す^ス乃^ノた^タえ^エあ^アま^マじ^ジあ^ア色^{シキ}魁^{ケイ}と^トは^ハ十^{ジュウ}乃^ノ余^ヨ乃^ノ右^{ウチ}入^イ道^{ドウ}と^トも^モ

ま^マう^ウ乃^ノあ^アま^マり^リよ^ヨま^マあ^アま^マ兼^{ケン}乃^ノま^マじ^ジ風^{フウ}情^{ジョウ}あ^アり^リる^ルさ^サは

是^{フボ}よりけりきりおよびのまゝなり其のたふしね新
座中座^カの田^シ柴^カは十余人^{コラ}忽^{コラ}然^セとあはれ座^カ席^カよつ
るりてぞまひうさひきりきり其^{ケラ}はまゝいよの常^{フコ}
ふこゝあり座^カくもて拍^{ヒキ}子^シをのめくううふふと
とまげん天^カ王^カち乃^カやうれり城^シ見^カもやとぞ
もやしげのわら女^メば姿^コと守^カてあまり此^シ面^シ白^シ
さふまうし乃^シ原^シより是^カと見^カる小^カ新^カ座^カ中^カ座^カの固^カ
柴^カともと思^カつつるまの一人^カを人^カゆくとあはれり
きりあはひいらりまゝゆがまゝとびひの下^カと
るりてあり或^カい亦^カ小^カつづむさあそそくうら山^カ伏^カ

のしゝくもありいふい其^イ形^カのこびまのた
がうらうと人^カよ響^カしあはれとぞありけり女^メ
是^カと見^カてあまり小^カ少^カいごよあはれきり人^カと
もいらして城^シ入^カぬあぞ若^カうりきり入^カ道^カとら
まのまとりあ人もた刀^カとあはれを酒^シ宴^カのせまは
のぞび甲^カ門^カと驚^カらる小^カあやみきりあゝとと城^シ
守^カてまげ者^カのあはれまげもあはれおせお推^カ入^カ道^カあ
はれあはれあひあひあはれあはれあはれあはれあはれ
ゆうえん乃^カ座^カ席^カと見^カる小^カ徹^カよとんぐれあはれ
きりよと是^カと見^カてあまげがしあはれうらみの上^カ小

高きとてそのく是れ其がし機入る事とてこころ
減めし人々立られ其のて船小さんごころを
色するは久しくお控入道中よりきさうめておき
とて是れがうぜんとて久しく更しあう所なり候日よ
菊家乃儒者刑部が捕ありのりびるを傳せて
と下すのさ小乳とてその時よりまゝいせいとてりよ
星らとてりよとてりよとてりよとてりよとてりよ
王の佛はさいあよの具地めく智徳太子
うう日中一列の事系記とてりよめ結つりさま
枝ごむまのがとて王の此よりまゝいりとうとてりよ

きんじそあやけきりうさ海天皇もあよりそ下
乃勅記を来く因家殿七志ねとねがゆあまを因
主徳とねさめあ家の仁とてりよとてりよとてりよ
けと謀とねさめよりとりよきりうがとてりよと
因ひあうあや世は殿小きりなありのり捕と
小末徳の函とてりよをりうとてりよの箱とてりよ
かをきれりうとてりよ入道かろ候徳あえりうか
まのくさきとてりよとてりよのやび時とてりよ
時をたふた乃の用りてりよひあひきり候見そ
は禪門面白き事小思ひく是れあいにりう

小治よりとうるまめ里財守のあぞちふか
目あたるりとしを前相とちとうきやう死亡の
申小治て儀まかりしうるまひ也

時政之の傳トキマサノツト一系終シノヒサの事コト

時政之小治をうまよ及と成り下乃きんとし
事一源平家乃同よ地ちてなる小及なり然
天道い必とてうとわくゆへよ或る一代め
月ろひ或一せとをあまう守あうせぬいま
お控入乃の一か下とたえりしとて小九代
小及ふば事一あり首極念うくれとめ

小泉守時政点の傳コイズミノツト一系終シノヒサして子孫の繁昌と

りの里きり三十七日小南里ける和赤茂とらぬよ
柳うらり長きうら女房のむんむんむん
う忽然とあく時政がおよ事と若くいとくは
お生ハ和根法師なり六十六部乃法華經とあよ
一やあくと六十六ヶ國乃まはちよ和綱とありし
ざんざん小よて二うひおよ生る事とて
うりさまけ子孫あぐく日中乃いと成と繁チカ小
むにかるし但を梅らまひたがふ所ありむ七代
とるべのう守よりりふ所ふしんありは國と小

母さめし所乃具地を見よとりの控て海路を
せぐこと忍ませりうをりつりつり女房
惣小少一受け女丈計の大ぢやと聞く海甲小入
よかりも政と忍ら小大るううろことと三川井と
せり時政所形成就忘れとらるしひて別枝うろ
と成ぬとらるりんとぞとらりきり今此三
りろこ形乃まん毛也と政毎才天の信志せんよ
何せと國との具地へ人と流るりて法華經を
綱乃所と忍をきり小信名のと記まき成法師の
名よ町へと書綱尚の上小大は法師時政と書うり

しそあしぎされうまは今お控入道七代と過と
一と下成ぬまらきりまゑの傳の每才天地信利
生又ハる云乃若國よりんとてまら故也今の宮
時禪門とぞ小七代と過と九代小及るりされも
わろぶるも時利系してのうあしぎれある系
ともせうまきりうとぞぬりけりうとらるん
大塔乃文然野ゆりの事一ひるひるの塔も
大塔文二小親王若慈恵の城はあんふと守反さ
まんうめよあうと南初乃般あさよあひて淨産
育きうぐうとら此の城とぞ小落て直上とらるり

うせ結ねとすくまは虎の尾と少びぬをれは
おの上小せまりて天地ひろしととともはあは
ゆくさるるきある一日月あさううるりとりた
名教よ浦よるらうちあてひかひ野東の葉小
ゆらきて霧よあうづられ本よ海とあうそひ
教あこまんのは小うすきて人をとらひら雲
乃大はゆふとあやまうらひの重とてえはあら
やまうらうへきあるうりきれた角てもあむしは
と思なれきうあよ一乗後の作人梅家法船う
せんりくあくやうりきん又百餘騎を率志て未

メイシニヤ
ゆ小般あさへぞよせうりけりお首まよつさ
いろ人ひらりえなうりきれた一勝少せぎてあ
うせ結よるき梅をなうりうら上すきまもあく
共改よち肉小打入をれた海まれてゆかむるき
あをるうらうげう一自害せんと思なてはそふ
とてまごわがせ結ひらりけりうが事乃うなひ
さるんごふのぞきてうう城さうんすハハ
屋とうらうるりやとかくまきんをわと田る
わして佛あ乃方城は境とらよ人のよえうけて
垂うら大まんよやのううひ川三川あり二月の

給ひくぞおきうきり桑のあつく共た又佛殿よ
立うつりおよあさこのあきうらと見えりつらぐ
おがほつらうらとてお禮を皆打うつて見えり
がめうくと打うつひく大般あのみ川此中誠
よくくさうぐうれも大悟あきりくせ給つて
大廣乃ぎんじやう三巻くそおとしけきとたえ
かれきまけ共皆一同小まらふく門外へぞりて
小きく乞ひくよまらきんの高うおう又ハ十
六番神のあうご小よら命也と伝ふまをよめい
じうんあいの袖とうらがせり角てハ南初色の

おのくまがもうるひぐさけまけ別般あ吉と
おろそ熊野の方へぞおらうせ給きりお供乃
あけ光林房玄音赤松律師別祐本あうらと
参河房武蔵房村上秀雪房片墨八郎矢田彦七平
賢三郎おまき以上九人なりまをまめをて
修乃者色もみおのあらえよおひとけこ
まんまのあうらと小せめを中よ年とせらと先達
小堀りうそ田金山伏乃く海野素詣とら辨まを
忍をうりけらびまをともりまうらうりやうを
乃肉よひととらうせ給ひくくまきん乗車の外

とがさせ給りぬ事一もまたぬりうらうら此は
遠いさうめてうなりせ給り一とぬとも此人
のくもふらうら一も田ひうら小栗よね遠あ
りうらうりせ給りうら事一うら孫夜あやげ
うらうらびうらきとらふげと右てあを茶那うら
ぬ氣文えうら社このりうるの宿一此は法とめ
なうらうらせ給いぬりきぬも流次よ新あひきう
道者も勅修とけあふ先達を見とらびうらうら
うらうらうらゆらのみあくと見海せはあきとく
ぬのうらとたぬ浦の瀬ゆふりくえともあうら

まきちふまきふき紀乃路のき山るうくと宿
代乃松よかきまうらその波和歌吹よとよそよ
見そ月小みかげうら海津橋老りえ今いさうらで
うらふと派津浦の霧のみらんとらうらとらうら小
ぬとうらうらうらうら樹夕と送るまきとのの
あうられとりまが寸耐一をあまきうら目れ王子よ
あうらふとねいさうし乃霧よぬ袖とくおてぬ
あうらしりの里うらせ給りうらあ菊と改命以礼三不
権現満山後は十万のきんぞく八万比金對うら
うらうらうらうらわく和光乃月あうらうら小ぶんぞん

同者乃やも試てささしキウケン送片忽よ月るびとてり
ていニうひうやを事とゆぢめ給人ツタヒラケケニルリウラ傳取あ
所指規いきりさあさりさあそのシウササ意作るり我志
そづうえいとあてりまテウニツ朝日忽よ浮雲のうあ小
かくされてあうあんうりあふりさ海さるんや
せんくんじうさふあニうり祿を祿うらむ君
るんぞあさうじと又うんと地よるげて一ふ小
滅とりのあさぞ新イリPさせ給ひきら舟滅無二の
法とあうんあうるぞうあうさらんと祿シヨ適を
そさふさうられうりよをまごうのラゲイ礼あよ法キウ窮

ふありきまけ法ひぢり滅まげて枕とあさうら
法まごらうありきう法着よびんづうゆふうら
どうじ一人事てうま野三山の君ハナラ殺を人の心
不和あして大儀キ儀ううもより十津河此方へ
法後りうて時乃新うびと法ニチ約ゆへうあ所ゴシ指
規よりシ兼肉者小法けまのうせうまてえと法ニチる
あうべ仕へくひとPと法シ後せうれて法着ハ別スナワチ
さめ小たり乞指規乃法づけ也たりと新シりく
思なれまを末ミ物よ法うらうひ乃わうるいと
さうげト厚うく十津河をツ船カワを船フネてぞまけ入せ給きら

まうら乃箱三十余里が岡ゆはたきて人さうとえ
なうりきれたん或ち高祿の雲よ枕とそんうそく
こけのひーろ小袖とお戒い思えら水ふうんと
あひえらうらうら橋よまを越けを山ぢりともり
あうくあうくお準常小衣とうらり寸忍あぐまは
じんぞんのせいゐるきりよきりまら忍あうせだ
ふまのるきうん藍よそあ聖教目の圓明らんまん
るんを纏させ給へんは男を茶那とそく流あ
あせあのおとくは是いけそんうてとらふ川
皆血よそぬまらは修の人こを皆きりてんせき

小あうされもさかう人はうまてまうくしとを
あゆまゆさりきれたはらう一城をいぬをとけく
乃乃箱十三日小十津河へぞ美せ給きらんまは
こあうけ雲乃肉よ藍やては供の人こを在家よ
ゆぐく海野系泊乃山伏皮道よ海よひて来まら
ゆとりひけまは在家乃まのたあままみとさま
て梨乃りひとらのかゆあうあかしてまう人と
おうすくまゆをひ木をまのうせく二三日いる
きり角てい始終りくまうまは是くけりきれた
光林房玄尊とあう在家の花ぞさもあう人の家

さうらんとおがふ所よ行てさうらべのおさる小
家^{イヘ}ま乃名成と人ともは行来^ラ八筋入道後此をひ
小戸野出湯後と尸人の所よてひとりひきれん
さしてあきしそら矢^{ユミ}おとさう者と宇及ふなる事
ひふきあきもと頼^{タカ}まするやと思きれん門の内へ
入る事乃やう成忍さくおよ肉小病^{ヒヤク}あありと
老^{ヲホ}てあられらんとあらん山伏^ゴ乃おそれし
いのらせまよりせんとりふ發しきり玄^{ゲン}すすん
やららさあうの事しそあきと思ひきまけ發^{ハツ}と
さうらふあげくこま^コハ三^{サン}まは^マは^ハ七^{シチ}日^{ニチ}うこれ

^十形^ナ者^ノよ子^コ目^メありりて所^{トコロ}三^{サン}所^{トコロ}乃^ノ形^ナ礼^{レイ}のうあ小^コ所^{トコロ}
か^カうら山^{ヤマ}伏^{フク}成^ナ乃^ノよあを備^ヒよひくば置^{サテ}よおとくは
一^{ヒト}粒^{リツ}の霜^{シロ}と^トりし一日^{イツニチ}のう人^{ヒト}ともやとめ給^{タマ}人^{ヒト}と
りひ^{リヒ}を^ヲねて肉^{ニク}よりあや^{アヤ}げるら下^{シタ}女^メ一人^{ヒト}
おあひあきしそあき佛^{ブツ}神^{カミ}の肉^{ニク}さうらひと
老^{ヲホ}ててひへ老^{ヲホ}乃^ノ自^ミの女^メ所^{トコロ}相^{サウ}慳^{ケン}とやませ給^{タマ}ひは
新^{ニヒ}てた^タげせ給^{タマ}りしむやと^トりせは玄^{ゲン}者^ノ親^{オン}あま^マ
山^{ヤマ}伏^{フク}少^シくは^ハ間^マうるひはま^マあき小^コ忍^{ニン}くは^ハ過^ツ當^{トウ}
小^コ是^シとやとめて看^ミられくは老^{ヲホ}者^ノトそ^トう^ウま^マん
形^ナ一^{ヒト}の人^{ヒト}ゆ^ユく作^{サス}人^{ヒト}は^ハ格^{カク}と尸^シさん^{サン}よ子^コお^オひり

とりのままは女房たよりありひてさうけを先
達乃内房あまへ入まのううせ給へとりひえ
あくる事一かきりる一玄書し一里海くば由と
中を連りまといめきて内惟の人さかきく
うちへ入せ給ふま病志の申うう所へ内入まて
ねみちありせんぞめさうふと二三むんさうら
小あそんされて内福んどめ張といもませ給ひ
をまは病志ううらうらきて給ひのる人張りひ
きり減よぬ玉のぞくふけられうう神まで是
は張らめてしるまきみいよあせと流して

スエラメキ

メキキ

病の慥い別立さうりねまて病者息ふるゆうも
あうでのおつとまあなすうらうひて我たぐ
り人あう病らひて別の内引お物色さうるひい
浦まげて十余日先よ内遠るうて内是張やま
めさせ給へ内山伏そ内小患ひて内あげは
ねと存ひんと息ううと先と内あちよ給りうび
とて面こはあひたをね合てみお肉水ぞ盡うり
きり内修の人こ上あげを氣文とあういさすと
ソ内下まは皆うらうひ思へおるノかきりる
角て十余日減るうせ給きり小或軟家主の無勝

射^{シラ}すやくでんよぬくうきぬあそせさせよも山
の洞^{ツク}治とも志きり次^{ツク}よりつらいついかにくも定^{サマ}
めてす及もせ治ひうり事^{ツク}一えいらん滅やうん
大塔^{トウ}文京^{ブキョウ}初^{ハツ}と落^{ツク}るせ治ひく熊野^{クニノ}の方^{カタ}へ赴^{ツク}切^キせ
治ひひきんらう三山の村^{ムラ}あちうるん信^{シノブ}初^{ハツ}ハ二
ふる紀^キ武家^{ブケ}方^{カタ}ゆく入^イて熊野^{クニノ}造^{ツクリ}よは母^{ハハ}ひあらん
るの^ノい滅^メ切^キうく是^{コノ}いあもまは置^{ツク}へ入^イり入^イ
う^ウ雨^{アメ}そを肉^{ニク}いせ^シとくう^ウ在^イ方^{カタ}うかきんそ
ゆ^ユく十里^{シヨリ}二十里^{ニジュリ}が甲^{カウ}へ^ヘ去^クも^モう^ウけ^ケ里^リご^ゴい^イき^キ所^所
よてひま上人^{ウヂノト}のふり^フり^リう^ウもあ^モく^クら^ラ矢^ヤと^トう^ウ

事^{コト}一世^{シヨ}よ^ヨい^イく^クう^ウり^リされ^レて平家^{ヘイケ}のちやく^{チヤク}そん^ソん^ン惟^ヒ
徳^{トク}と^トり^リき^キり^リ人^ニを^ヲま^マし^シ運^{ウン}ら^ラが^ガ老^{ロウ}祖^ソと^トき^キの^ノそ^ソく^クい^イ所^所
よ^ヨか^カら^ラれ^レは^ハあ^アふ^フ小^コ原^{ハラ}氏の世^ノよ^ヨは^ハけ^ケく^クが^ガあ^アく^クひ^ヒき^キり^リ
と^トう^ウそ^ソう^ウけ^ケう^ウ満^{マン}り^リり^リひ^ヒへ^ヘと^ト治^チり^リき^キま^マは^ハま^マや^ヤ滅^メ
小^コう^ウね^ネい^イぎ^ギ小^コ田^タ右^ウ衛^ヱを^ヲう^ウる^ル由^ユ氣^キ文^{ブン}あ^アう^ウり^リま^マて^テり^リ
大^{ダイ}塔^{トウ}文^{ブン}京^{キョウ}の^ノい^イひ^ヒ所^所へ^ヘ由^ユ頼^{ライ}ま^マて^テ入^イせ^セ治^チひ^ヒう^ウう^ウけ^ケ
頼^{ライ}ま^マれ^レう^ウせ^セ治^チり^リん^ンと^トう^ウう^ウと^トこ^コり^リせ^セ治^チ人^ニし^シ戸^ト野^ノ
長^{チヤウ}清^{セイ}り^リよ^ヨや^ヤる^ルひ^ヒひ^ヒあ^アふ^フせ^セう^ウ小^コ人^ニを^ヲ某^{ナニ}一^{ヒト}人^ニぶ^ブう^ウ小^コ
の^ノち^チ事^{コト}ぞ^ゾと^トり^リさ^サん^ンあ^アく^クが^ガせ^セめ^メう^ウう^ウ坂^カ湯^ユ浅^{セン}河^カ
世^セ川^{カハ}小^コ原^{ハラ}の^ノえ^エが^ガ世^セ中^{チュウ}津^ツ河^カ若^{ニホ}野^ノ十^{ジュウ}八^{ハチ}心^{シン}の^ノえ^エの^ノち^チ

もよふ守者いまだきまていとぞりきるを内文
本もお推よきと内目合ありけまはお推は長湯
がそえ小居家て今い何とや叩くし甲るきあの
先達乃内房こそ大塔のまゆと内屋あまきとソハ
きねんば長湯程もふしんげゆとくまきのりか
とほくくともあかりきる小竹墨八房矢田彦七
河のあつやとてとさんとおきてそえ小さ一壺
突乃山伏るる縁もさうり縁き此あとかつまきる
長湯を忍てげ小え山伏ゆとせしせさりたり
うーくそびる人甲おーうりきるあま懐まー

此箱のあつまひさこそ免務よお推一めい川
らんとおか小舟とろきてうう色と地よほけま
城はく縁うみよりおりてそんさうまやり俄小
黒木乃内所と他くま城も獲し尊り何方此山こ
小園をよ急乃とさりあささうて用んまびーとそ
忍とらりきるきも程大儀乃計略うまひが
とてならの竹原八房入道小比由と治りけま
入乃縁うく戸野が叩くらひ小居と我がうらへ
まど入まのうせ二あうる記氣文よ忍とけま
ゆんやとく思てそ小守年計内座もきる箱よ

人小忍ありれじと思ふまきりしはなむよはぞん
ぞくは辨小娘せ給ひをれたし竹原八郎入り息
女と親のおととへめされしは母あり地小く
ありてしを家主の入道をいめくありさう一哉
しゆけをきり心民たも次舟小田伏しりゆ
りて神て武家とけさうりりち相小熊野の村
あらうるんばいりて中河へよせんり
事一いりひ十萬石の地ありたありあへりす
そちの心民たのよく志んとすしめてまを他
へおひきりしととおららひて道海内は

小礼と書てしそをりあ大膳と討事りうらじ
者まは地織がんげとりす守伊勢のくら海の家
と申しあう小のくをこまりりるるき由關東の地
あ書あまありそ上小ちあうるん花三日が申小六
百費とあうふるし内志らうのんは年の人と
討らうるん者まは百費人よあうん費小い
三百費のりまもそ目の申し小必さうしあうふ
るしと定めておく小起信文のしうんどのをて
せんまのの法とぞりしをりそまいがくは信ハ
均とめくせんがうあまんまんのまのいひる

ふとうぶんりんがうめるまじしよくあんううさう
のハ彦目たばれとてまねてりあうんさじ
文かよりてあやまきしうまひたすぞやまきり
ま角ていけ所のゆとぬわ始終わうりるん若
野のちへえぬおあうどやとゆられきると竹原
入道りうら事やひるまことあおてあPをまは
うまうんとあぶらまんゆえさすう小町りせ
路りてまやうまの甲は月日と送らせ路けりよ
句竹原入道り子たさう人あうあいとそひきてま
と討ちとんととらうそありとやあうはえ

ひそろ小十津河をかうせ路ひく高野の方へぞ
道ゆせ路ひきうそみり小原のえがせ中津河と
りよ款保乃難所と経て通ぶらうるまそ中く款
と打頼とて見まやと思るま先のえがせ乃彦司
がりとへりうせ路をりいそがせまをけ我うら
へ入まのうせ路してそんるうゆ裳よ直り使
まとりて甲ううい三山乃村南ちうるん命を
少くして濃濃ふううのともううとけは岡東へ道
を仕事事してうてはるよりち右るくとあ
まのうせんゆぼ乃船料ちんしやまらん小橋

へうすはさりあうまを留まのりせん事い
そねをれへて内侍の人の中ミナ小名ミナ字ジさうりねべ
町マチもんもん人を一西人イシヤク結ムスて武家へタケノカ石イシ後ノチしいり
然シカらすはねりんのもこを結ムスて合戦カツシ仕シくはつり
な流ニハあまゆくはと武家へタケノカ入イるさゆくは比ヒ二川
乃ノ昌シヤウソクまをかまふまぶきとの内ウチ意イゆくとく
わかろく一矢イチヤ仕シらんすうすてはと滅メは又余ヨリ伐キも
るげゆぞ入イりきりまは公事コウジりの事コトも罪ツミ
養キるりと思オモはてあへてはむのやえなうりきり
赤松アカノネ律師リツシ別結ベツケツすみゆくと入イるあやうさ伐キ

見ミて合戦カツシ終ハシむとい士シ卒ソクのやが子コ所トコロ小コはさまけ紀キ
伝デンちりのりりて魏エイよらうりぎとらうい備トニツと城シロと
ちんきみおまの命イノチよかりて名ナととめしをの
よてゆりすやとてえうくてえりまぐ所トコロ存ゾシとけ
て内ウチ所トコロと通トウしまのりさゆくとふとく別結ベツケツ
由ユ大事ダイジ一イチ小コかりりて死シかめん事コトは子コおあ
まマ一イチさまゆくとせむし平ヒラ賀カ三サン席セキをとつて米メ産サン
の意イ見ミ卒ソク命イノチの伐キすてうたばうんくの中ナカ一イチ小コ付ツキ
まマとひきりうら人ヒトは一人ヒトととをえ上ウ乃ノはとあ
まはふらう身ミ目メよりえとて切キらうと思オモはされい

る一統^{トキツ}仲のえがせの^{ニヤツ}庄司が甲^ニ不^ニぎふりくせ
まのくくく^ニてま^ニやま^ニさ^ニ小^ニ付^ニく^ニれ^ニま^ニと^ニ計^ニを^ニく^ニと
されいよ^ニは^ニ何^ニの^ニた^ニう^ニは^ニる^ニと^ニ戦^ニ陽^ニよ^ニる^ニ物^ニの^ニを^ニと
ま^ニて^ニう^ニら^ニ口^ニと^ニ落^ニし^ニて^ニ款^ニ小^ニと^ニり^ニあ^ニく^ニ事^ニ一^ニう^ニ海^ニで
の^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニた^ニ共^ニり^ニま^ニが^ニ甲^ニ結^ニか^ニ旨^ニ小^ニま^ニう^ニせ^ニて^ニ甲
ま^ニい^ニと^ニ下^ニさ^ニま^ニり^ニへ^ニう^ニと^ニ甲^ニを^ニれ^ニま^ニま^ニげ^ニ小^ニり^ニと
思^ニな^ニて^ニ日^ニ月^ニと^ニ金^ニ銀^ニ少^ニく^ニ打^ニえ^ニは^ニけ^ニう^ニら^ニめ^ニま^ニの
は^ニま^ニと^ニ城^ニり^ニえ^ニが^ニせ^ニの^ニ庄^ニ司^ニが^ニ下^ニさ^ニれ^ニき^ニら^ニ自^ニて
ま^ニい^ニま^ニら^ニり^ニ小^ニ形^ニを^ニさ^ニせ^ニ給^ニひ^ニね^ニま^ニう^ニと^ニま^ニて^ニ村^ニ上^ニ
考^ニ考^ニ御^ニ義^ニ光^ニら^ニう^ニの^ニう^ニら^ニ小^ニま^ニら^ニり^ニま^ニよ^ニを^ニひ^ニ付

ま^ニら^ニう^ニせん^ニと^ニ急^ニげ^ニら^ニ小^ニり^ニえ^ニが^ニせ^ニの^ニ庄^ニ司^ニま^ニら^ニた
ま^ニく^ニら^ニま^ニて^ニ初^ニ合^ニわ^ニり^ニえ^ニが^ニせ^ニが^ニ下^ニ人^ニま^ニ持^ニせ^ニう^ニら
ま^ニと^ニ城^ニり^ニま^ニら^ニま^ニの^ニ庄^ニ司^ニま^ニら^ニり^ニ村^ニ上^ニあ^ニ甲^ニ一^ニま^ニて
事^ニ一^ニの^ニ務^ニと^ニま^ニら^ニう^ニの^ニ由^ニと^ニ治^ニ子^ニ村^ニ上^ニこ^ニあ
そ^ニえ^ニ何^ニる^ニり^ニぞ^ニや^ニ赤^ニも^ニ口^ニ海^ニの^ニ直^ニめ^ニと^ニあ^ニら^ニう^ニま^ニら^ニ
天子^ニの^ニ四^ニ子^ニの^ニ初^ニ款^ニは^ニ直^ニ野^ニれ^ニあ^ニ小^ニ庄^ニ門^ニあ^ニあ^ニら^ニ
海^ニ次^ニ小^ニ糸^ニ合^ニて^ニ汝^ニ木^ニ箱^ニ乃^ニ大^ニが^ニん^ニげ^ニの^ニ厚^ニ川^ニ氣^ニが^ニた
務^ニの^ニ事^ニ一^ニ仕^ニる^ニま^ニら^ニう^ニや^ニあ^ニら^ニと^ニり^ニひ^ニく^ニ別^ニ庄^ニま^ニと
と^ニり^ニう^ニま^ニし^ニひ^ニく^ニ初^ニ利^ニま^ニと^ニ物^ニう^ニら^ニい^ニも^ニり^ニせ^ニり^ニ下^ニ人
乃^ニ大^ニの^ニ男^ニと^ニは^ニう^ニま^ニて^ニ甲^ニめ^ニま^ニ計^ニぞ^ニる^ニげ^ニう^ニり^ニき^ニら

そらよしの里よく比類あきよやあそれうりきん
いせうせの彦男一言のぬるしをせうりけきだ
村上まうらうのねとていふけく箱なくまよ
道付まうらう義光のあよひごゆききてけやうと
ままけえ滅小うねげようりまうりせ結ひく
別祐が忠いもう志しやが後とち里平賀が智い
ちんせうとぞやうが傑とゆ義光の勇いやくまう
わうが機と志のびたりは三きんをえそ我るん
ぞぞ下とあさめさらんやとゆられきりそあき
そあいあめあむかきの原あうあうら山が川の

いホ 小作 小作とわくわけさせ結ひくゆまけ小作へ
とらうしてあひいへ山人のゆさあひいへふ
乃の機とゆあききりふんを記さうりももさうす
が足まりまのうとやありきん新とおう地
ふひごまうつきてまより小作へはと成りらん乃
あけふあきあきとて二ふなき武家方の人
あうらあひい人となうらひひりてあうりく
らの大勝してをそあはれ通ひわとあきすひ
ああうらあきあきとて二人の使小
はういされうてあ人のああもあうられい人

うしとそPきりまはくくくとやるされてすう
ざうのしとん途もまてじとりふいも也げ小も
きらりが甲^{トコ}敵さもとおがゆりぞとて所^{ロク}思八席
矢田^{ヒコ}考七二人とふぬき乃^{シラジ}虎刃^{シラジ}がりてへはらひ
されくびるを^{トク}通りもる道^{ミチ}のきいご小^{キト}本^ト戸
とひくささうらそぎと引のけさせよとぞゆられ
きうらぬきを刃^{トク}使小か合て事一の由^{トク}成^{トク}すて
をぬるすよて肉へ入きうら^{トク}が^{トク}成^{トク}く^{トク}目^{トク}ら^{トク}う^{トク}中
圃^{トク}茂小^{トク}物^{トク}を^{トク}う^{トク}せ^{トク}る^{トク}よ^{トク}う^{トク}重^{トク}事^{トク}一の^{トク}祈^{トク}う^{トク}ん^{トク}が
ぞ小^{トク}思^{トク}く^{トク}き^{トク}ぬ^{トク}て^{トク}二^{トク}人^{トク}乃^{トク}は^{トク}使^{トク}り^{トク}や^{トク}ノ^{トク}この^{トク}の^{トク}す

のあふま^{トク}ぐ^{トク}う^{トク}り^{トク}多^{トク}り^{トク}さ^{トク}う^{トク}ら^{トク}ぬ^{トク}き^{トク}さ^{トク}う^{トク}一^{トク}重^{トク}海^{トク}く^{トク}け
ゆ^{トク}P^{トク}さん^{トク}と^{トク}て^{トク}是^{トク}ま^{トク}よ^{トク}ゆ^{トク}ま^{トク}け^{トク}ふ^{トク}ぬ^{トク}き^{トク}が^{トク}り^{トク}う^{トク}う^{トク}
た^{トク}六^{トク}十^{トク}人^{トク}と^{トク}り^{トク}若^{トク}刀^{トク}計^{トク}ゆ^{トク}ぬ^{トク}道^{トク}け^{トク}さ^{トク}り^{トク}二^{トク}人^{トク}の
者^{トク}立^{トク}と^{トク}む^{トク}まり^{トク}小^{トク}松^{トク}乃^{トク}二^{トク}三^{トク}中^{トク}あり^{トク}き^{トク}う^{トク}け^{トク}より
お^{トク}ど^{トク}り^{トク}ぬ^{トク}く^{トク}美^{トク}お^{トク}小^{トク}す^{トク}み^{トク}う^{トク}ら^{トク}武^{トク}志^{トク}乃^{トク}馬^{トク}の^{トク}ま^{トク}ら
ひ^{トク}ご^{トク}あ^{トク}ぎ^{トク}て^{トク}も^{トク}の^{トク}ゆ^{トク}く^{トク}さ^{トク}せ^{トク}ぬ^{トク}と^{トク}若^{トク}刀^{トク}ゆ^{トク}く^{トク}首^{トク}打^{トク}落^{トク}
あ^{トク}く^{トク}そ^{トク}り^{トク}あ^{トク}る^{トク}若^{トク}刀^{トク}と^{トク}を^{トク}う^{トク}重^{トク}て^{トク}ぞ^{トク}立^{トク}う^{トク}り^{トク}き^{トク}ら
あ^{トク}と^{トク}小^{トク}ほ^{トク}ぐ^{トク}き^{トク}て^{トク}道^{トク}う^{トク}ら^{トク}者^{トク}た^{トク}も^{トク}乞^{トク}と^{トク}思^{トク}て^{トク}あ^{トク}ん^{トク}く
を^{トク}付^{トク}ま^{トク}の^{トク}一^{トク}人^{トク}え^{トク}る^{トク}一^{トク}只^{トク}重^{トク}矢^{トク}よ^{トク}射^{トク}す^{トク}く^{トク}め^{トク}け^{トク}是^{トク}所^{トク}
所^{トク}思^{トク}八^{トク}席^{トク}矢^{トク}二^{トク}筋^{トク}射^{トク}付^{トク}ら^{トク}れて^{トク}今^{トク}い^{トク}う^{トク}守^{トク}かり^{トク}ぐ^{トク}

しと思ひをねたやとの矢田ありまといとしてえま
おひをねたうく少くうり死せんすうぞ色色ハ
りて死まの由方へもせ希くは由を早て一まど
えおろしまのうせよと申せあてりひをまは
矢田を一取して討死せんと思ひをれたぎふを
えよつげ尸さゆんハ死てふ思るるべきまは
かるく只今討死せううむいむと見控てぬきり
ふ乃中をうらうられてあまき也矢田うらうふ
初のひて初とうり思まは所置ハ席ほうとま
ねと思ひて首級志刀のまらう死ふはうぬきて

持らう人あり矢田急さうと申ぬくは由を文小
尸をねたてあのがまねる小初つまりね運の
窮するげくよしとらるる一死して色色の人く小
死らうて申さううぐ氣文ぞやうりきうさまは
とてあふとくまらるるきふあうすゆるまんじら
雨色ゆけやとて上下廿余人の矢田をう死よ
とてまのうせしてひく山路とそとく初うら
とぞふ申津河の味とこしびと一死ひきりあふ
向ひ乃山の暴ふへぬさが機と先きてみ六百人
が箱ひい切がとふうらみてうてとあよまうめ

射^イ手と丸^ソ右へ日^ソけし時^コ乃^コ射^コとそあ^ケけりきり
ま^モを^シ使^ラ境^ラ下^テて^ズよく^クう^ン射^コ小^コ射^コとそ^ラよ^ホ
あ^ヤう^セ結^ビく^ハ手^ノ者^ヲは^ム向^カく^ハ矢^ヲ種^ノあ^ラん
ど^ウ種^ハあ^セぎ^キ矢^ヲ射^イよ^ム志^ヲ川^ノ小^ノ自^ノ害^トして
名^ヲと^シ第^ニ代^シ小^ノの^コと^シと^シ但^シ者^ノあ^ハひ^カま^ス人^々と^シれ
より^サき^小ま^ウ切^ルる^人々^々と^シれ^日進^ムと^シて^不
自^ガ害^セけ^ル面^ノ皮^トも^もぎ^取け^るま^と切^ク誰^カ首^皮
見^ルと^ハ種^よ志^すり^てと^川過^リそ^おい^我が^首と
り^いづ^くま^ん小^ノ入^けて^さう^され^ると^下よ^也
あ^のら^うう^一城^存ぜん^志い^カと^うま^ひ敵^のい^味

射^イ手と丸^ソ右へ日^ソけし時^コ乃^コ射^コとそあ^ケけりきり
ま^モを^シ使^ラ境^ラ下^テて^ズよく^クう^ン射^コ小^コ射^コとそ^ラよ^ホ
あ^ヤう^セ結^ビく^ハ手^ノ者^ヲは^ム向^カく^ハ矢^ヲ種^ノあ^ラん
ど^ウ種^ハあ^セぎ^キ矢^ヲ射^イよ^ム志^ヲ川^ノ小^ノ自^ノ害^トして
名^ヲと^シ第^ニ代^シ小^ノの^コと^シと^シ但^シ者^ノあ^ハひ^カま^ス人^々と^シれ
より^サき^小ま^ウ切^ルる^人々^々と^シれ^日進^ムと^シて^不
自^ガ害^セけ^ル面^ノ皮^トも^もぎ^取け^るま^と切^ク誰^カ首^皮
見^ルと^ハ種^よ志^すり^てと^川過^リそ^おい^我が^首と
り^いづ^くま^ん小^ノ入^けて^さう^され^ると^下よ^也
あ^のら^うう^一城^存ぜん^志い^カと^うま^ひ敵^のい^味
射^イ手と丸^ソ右へ日^ソけし時^コ乃^コ射^コとそあ^ケけりきり
ま^モを^シ使^ラ境^ラ下^テて^ズよく^クう^ン射^コ小^コ射^コとそ^ラよ^ホ
あ^ヤう^セ結^ビく^ハ手^ノ者^ヲは^ム向^カく^ハ矢^ヲ種^ノあ^ラん
ど^ウ種^ハあ^セぎ^キ矢^ヲ射^イよ^ム志^ヲ川^ノ小^ノ自^ノ害^トして
名^ヲと^シ第^ニ代^シ小^ノの^コと^シと^シ但^シ者^ノあ^ハひ^カま^ス人^々と^シれ
より^サき^小ま^ウ切^ルる^人々^々と^シれ^日進^ムと^シて^不
自^ガ害^セけ^ル面^ノ皮^トも^もぎ^取け^るま^と切^ク誰^カ首^皮
見^ルと^ハ種^よ志^すり^てと^川過^リそ^おい^我が^首と
り^いづ^くま^ん小^ノ入^けて^さう^され^ると^下よ^也
あ^のら^うう^一城^存ぜん^志い^カと^うま^ひ敵^のい^味
射^イ手と丸^ソ右へ日^ソけし時^コ乃^コ射^コとそあ^ケけりきり
ま^モを^シ使^ラ境^ラ下^テて^ズよく^クう^ン射^コ小^コ射^コとそ^ラよ^ホ
あ^ヤう^セ結^ビく^ハ手^ノ者^ヲは^ム向^カく^ハ矢^ヲ種^ノあ^ラん
ど^ウ種^ハあ^セぎ^キ矢^ヲ射^イよ^ム志^ヲ川^ノ小^ノ自^ノ害^トして
名^ヲと^シ第^ニ代^シ小^ノの^コと^シと^シ但^シ者^ノあ^ハひ^カま^ス人^々と^シれ
より^サき^小ま^ウ切^ルる^人々^々と^シれ^日進^ムと^シて^不
自^ガ害^セけ^ル面^ノ皮^トも^もぎ^取け^るま^と切^ク誰^カ首^皮
見^ルと^ハ種^よ志^すり^てと^川過^リそ^おい^我が^首と
り^いづ^くま^ん小^ノ入^けて^さう^され^ると^下よ^也
あ^のら^うう^一城^存ぜん^志い^カと^うま^ひ敵^のい^味
射^イ手と丸^ソ右へ日^ソけし時^コ乃^コ射^コとそあ^ケけりきり
ま^モを^シ使^ラ境^ラ下^テて^ズよく^クう^ン射^コ小^コ射^コとそ^ラよ^ホ
あ^ヤう^セ結^ビく^ハ手^ノ者^ヲは^ム向^カく^ハ矢^ヲ種^ノあ^ラん
ど^ウ種^ハあ^セぎ^キ矢^ヲ射^イよ^ム志^ヲ川^ノ小^ノ自^ノ害^トして
名^ヲと^シ第^ニ代^シ小^ノの^コと^シと^シ但^シ者^ノあ^ハひ^カま^ス人^々と^シれ
より^サき^小ま^ウ切^ルる^人々^々と^シれ^日進^ムと^シて^不
自^ガ害^セけ^ル面^ノ皮^トも^もぎ^取け^るま^と切^ク誰^カ首^皮
見^ルと^ハ種^よ志^すり^てと^川過^リそ^おい^我が^首と
り^いづ^くま^ん小^ノ入^けて^さう^され^ると^下よ^也
あ^のら^うう^一城^存ぜん^志い^カと^うま^ひ敵^のい^味

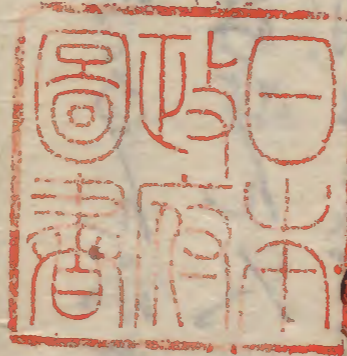
志うふてうづきあがりあせぐ兵を打物の上や
ともぐしでおしり小を付敵よ水のみにより赤
もこの三流を松のあらし小ひあ思してを勝六七
百勝が預けけかたりを勝次小を付まう小三
手小しけて時乃一息とあげくう海きの庄司が
おひよ美前小とく見うん或者大善勢とあけて
紀伊國の領人野長瀬六角同七席を勝三子余勝
少く大勝まの由色よあつたよ赤もび赤小射し
まのうせくらとひきとて成つてわう人いよま
ぞやう海きの庄司とのと思らひひが目り共今

わろぶつとさ武家乃逆命小勝と臣時ようんとひ
らゆせ給よるき親王よ款射してハ一と下の圃
り月建乃所小うあをのんと思ふ天野まう
どきとまのめん事一我ホが一戦の内よるあま
ままきうままとあめさうけひてぞのりしをきり
是を思てう海きがせいぬ百余勝うなりしとや
思ひまんとてをまてしと成ま紀え思小田角八
方へあげらりねま野長瀬先身切がく成ぬさ
らと日記ふまうてまうり小長るまやの内お
ちうくめされく山中乃為新大儀の計略うらひ

がさうらるるき昌大和河内乃方へうり母と勝と
ほきんらめ小を殺せしむらの南小へぬきた目
只今のうらまひ南乃共弟死の肉小一生とを
ぬぐうと是いつら小不道のたどけよあへか
る天運ラシ於朝チウあり小細シうりねび事何とて
存りきれたし戦陽シりもせ合て逆流の大軍
とばさびけぬらぞとは勢をまは野とせまて
Pきうい昨日乃ひ家箱小懸十位又計よい
らうある名とけ老松とりつりとな兼て大塔を
ゆ自十津河とぬおるそ小原へはと城里ありん

とらうが一定道よてるん小あはせ終ひわと母が
ゆるぞらうー残存せん人の急きゆ速よ来れと
あままりりらう同法使ぞとぬぬてあくいとぞ
Pきうまび奉一城内田農あり小只るゆはど
と思合せて年某ゆ才とけなされさりしと
乃ゆ才とゆ境とら小そはかひうきうりきう同
泳あ中一を思合て別あけてゆ境せしきをねて
小野天祚のゆ神神と金銅山といまのうせられ
うらまゆきんぞく老松ゆ神のゆあんあはるん
志んよりあせりきて始是小出乃付うらぞ不思

畿^キる^リら^ラて^テる^ルか^カう^ウん^ン津^ツ道^ド小^コう^ウな^ナつ^ツり^リ送^{ソウ}院^{エン}の^ノ西^{サイ}
治^チ何^{ナニ}の^ノう^ウさ^サぐ^グひ^ヒう^ウあ^アる^ルも^モき^キと^トて^テそ^ソを^ヲ送^{ソウ}院^{エン}より^{ヨリ}交^{カウ}い^イ
ま^マ紀^キ野^ノの^ノ上^ウ野^ノ府^フ電^{デン}賢^{ケン}が^ガう^ウら^ラ久^クう^ウら^ラま^マさ^サ野^ノの^ノ機^キ
へ^ヘ入^イる^ルも^モき^キら^ラう^ウも^モ程^{チヤウ}か^カ内^{ナイ}せ^セむ^ムく^クそ^ソあ^アう^ウ
る^ルも^モき^キと^トは^ハ志^シあ^アん^ンも^モそ^ソ右^ウ野^ノ乃^ノ大^{ダイ}府^フと^トり^リら^ラり^リせ^セ
後^{コト}ひ^ヒく^クあ^ア善^{ゼン}賢^{ケン}塔^{トウ}と^ト城^{シヤウ}郷^{コウ}小^コの^ノり^リま^マ人^{ニン}忌^イ切^キと^ト浅^{セン}也^ヤ右^ウ
野^ノの^ノと^トお^オ小^コあ^アて^テく^ク三^{サン}子^シ余^ヨ孫^{セン}と^トあ^アこ^コの^ノ人^{ニン}と^トう^ウて^テ
こ^コを^ヲら^ラせ^セ給^キひ^ヒき^キら^ラと^トそ^ソを^ヲゆ^ユし^シ



太平記卷第五

